スマート農業イノベーション推進会議（IPCSA（イプサ））について

○　**スマート農業技術活用促進法**及び基本方針に基づき、**スマート農業技術の開発と普及の好循環**の形成を推進していくため、農業者が中心となって運営する**多様なプレーヤーが参画したスマート農業イノベーション推進会議（IPCSA）※を設置。**

※IPCSA：Innovation Promotion Conference for Smart Agriculture

○　同会議において、生産と開発の連携、情報の収集・発信・共有、関係者間のマッチング支援、人材育成等を通じ、**コミュニティ形成を促進**することとしており、**令和７年度より本格的に活動を開始。**

■IPCSAの構成員

※会員数：953（R7.7.1時点）

コミュニティ形成の推進を支援

■IPCSAの運営

○運営委員

（株）浅井農園　浅井 雄一郎　代表取締役**【運営委員長】**
（株）アグリーンハート　佐藤 拓郎　代表取締役
（株）鈴生　鈴木 貴博　代表取締役社長
（株）ファームノートデーリィプラットフォーム
　平 勇人代表取締役
（株）日本農業　内藤 祥平 代表取締役CEO
（株）三浦農場　三浦 尚史 代表取締役
（株）日本総合研究所創発戦略センター
　三輪 泰史 チーフスペシャリスト

○事務局

農水省技術政策室及び
農研機構スマート農業施設供用推進プロジェクト室

詳細及び入会はこちら

IPCSA 設立総会の開催（R７.6.27）

○　農業者、民間企業、地方公共団体、大学、研究機関等の**約1000名の多様なプレーヤーが参画。**
○　スマート農業の推進に意欲的な農業者、スタートアップ、有識者等による講演及びパネルディスカッション等を実施し、**スマート農業技術の活用に向けた参加者の機運を醸成。**
○　参加者との意見交換を通じて、スマート農業技術を活用して**「儲かる農業」を目指す**こと、**世界をリードする優良な成果や技術を創出**していくこと等、IPCSAの役割や活動の重要性について**共通認識を深めた。**

設立総会当日の様子

○政務官挨拶

山本政務官

○事務局挨拶

農研機構
久間理事長

○決意表明

浅井運営委員長

○IPCSA活動紹介

農水省
齊賀技術政策室長

○基調講演

女子栄養大学
中嶋教授

○スマート農業技術活用促進法に基づく計画認定者の取組紹介

㈱おしの農場
押野専務

㈱Root
岸代表

○閉会挨拶

農水省
堺田技術総括審議官

参加者からの主な意見

○　スマート農業を導入することを目的としてはいけない。**「儲かる農業」を目指し**、経営の基盤安定や次世代への継承にとって**スマート農業が必要であるという共通認識の下でIPCSAの活動が推進されることを期待**したい。

○　**インプットをいかに少なくして、アウトプットを最大化できるか**がポイント。地域ごとに、**その作物の一番の理想形を示すこと**ができるかが重要になる。

○　特定の品目や経営、中山間地など、マーケットが小さく**単独で解決できない課題でも、IPCSAを通じて、他との共通点を見出すことができる**のではないか。

○　データ活用などのサービス支援の展開では、熟練者か新規就農者かなど**利用者の属性によってサービスの設計が変わってくる。**そこで**差別化していくことが必要**はないか。

○　**世界から評価される成果や技術**を生み出し、**グローバルな活動の展開**に期待したい。

○　とてもワクワクしている。IPCSAの中で、先進的な農業者等から、**これまでの課題やこれからの可能性などをもっと学びたい。**　など

○パネルディスカッション

（左から三輪氏、浅井氏、鈴木氏、平氏、内藤氏、押野氏、岸氏）

○交流会

（参加者間の交流）

（スマートグラス実演会）

今後のIPCSAの主な活動

情報の収集・共有・発信

○　専用サイトにおいて、スマート農業に関する**最新情報をわかりやすく発信**【６月～】

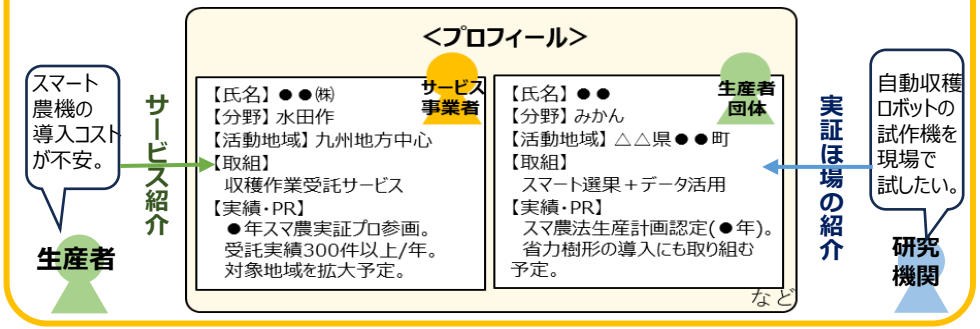
○　**国内外の研究開発・実用化の動向**、スマート農業技術の導入による**経営効果の分析**に関する調査を実施【７月～】

（全国各地のイベント等の情報を発信）

関係者間のマッチング

○　ニーズはあるが、既存のイベントでは**取り組まれていないイベント**を企画（例：スマート農業技術の操作体験等）【10月～】

○　会員のプロフィール情報を掲載した専用サイトを通じて、会員間の**自発的なコミュニティ形成**を促進【11月～】



人材の育成

○　スマート農業技術を「使いこなせる人材」を育成するため、**IPCSA独自の研修**をモデル的に実施【11月～】

アンケート調査等でニーズを把握【７月～】

全国の研修等の情報を整理・提供【６月～】

これまで十分に取り組まれていない内容・テーマを設定

IPCSA独自の研修機会の提供

研修プログラム構成（案）

1 理解（目的別・対象者別の体系的な研修プログラム）

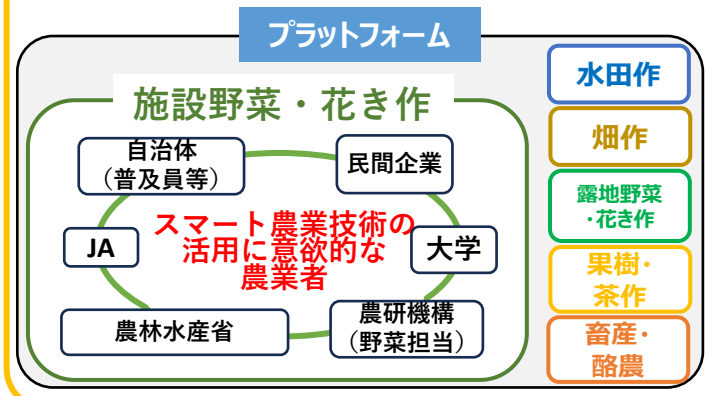
2 体験・実践（ハンズオンかつ地域密着型の研修）

3 定着（継続的サポート体制）

4 普及（周辺農家への波及効果

技術的な検討

○　農業者が先頭に立って、技術開発や普及をリードするなど、**会員が主体的に課題解決に取り組むプラットフォームを設置**することでIPCSA全体を活性化【９月～】



検討会

プラットフォームの枠を超えて対応すべき課題を議論

○○検討ワーキングチーム

△△検討ワーキングチーム